

代々木病院の理念

ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 657 2022年 7月号 1部60円 友の会会員は会費に含まれています 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-30-7 TEL 03(3404)7661 http://www.tokyo-kinikai.com/yoyogi

新型コロナパンデミックは 私たちに何を問いかけたか？

「政治を変えないといのちを守れない」 全日本民医連第45回定期総会方針に学ぶ

代々木病院では、この2年間新型コロナウイルス感染症予防のため、月1回定例の集合形式での全職員集会を行ってまいりましたが、5月に入り感染状況が一定落ち着き、約2年ぶりの開催となりました。

今回は、今年の2月に開催された「全日本民医連第45回定期総会」運動方針についてDVD視聴で学習を行いました。学習会の一部をご紹介します。

どんな2年間だったか

全日本民医連の定期総会は2年に1回の開催で、2年間の取組みを振り返り、今後2年間の方針を決定します。前総会後にはどんな2年間だったか？民医連は、新型コロナウイルスパンデミックという過去にない試練と厳しさに直面し

社会経済的状況による健康格差の顕在化

新型コロナウイルスパンデミックでは、社会的に弱い立場にある層に困難が集中しました。世界的に人種や所得の多寡などにより、感染率や死亡率に差が出たことが報告されています。

日本でも非正規労働者、シングルマザー、障がい者、高齢者、中小自営業者、ケア労働者、性的マイノリティーなど、パンデミック前から新自

露呈した社会保障のせい弱さ

日本の保健医療の水準は、平均寿命や乳児死亡率などの指標で、かつては「世界一」とも言われるほど高く評価されてきました。

しかし、1990年代から政策的にすすめられてきた保健所の統廃合や公的研究機関の人員削減、感染症病床や急性期病床の削減などで、国民

「自己責任論」のまん延と 基本的人権を守り抜く姿勢

長期に渡り新自由主義的価値観にさらされてきたこの国では、自己責任論に陥りやすいことが、今回のパンデミックでも



約2年ぶりの集合形式で全職員集会を開催、会場2か所でDVDを視聴。新型コロナパンデミックは私たちに何を問いかけたか？全日本民医連第45回定期総会の運動方針について熱心に学習する代々木病院職員。

「いのちを守るために政治への働きかけが必要」との教訓が明確化

「いのちを守るために政治への働きかけが必要」との教訓が明確化

2年間のパンデミックへの対応において、数々の政治的判断の誤りが現場を混乱させ、大切ないのちを失うことに繋がりました。

2010年の新型インフルエンザ(A/H1N1)対策総括会議報告書で提言された、保健所機能やPCRを含めた検査体制の強化を怠ったことから始まり、新型

社会保障充実のために

参加者から「民医連の歴史で一番苦しい時期にいます。同時に日本の社会の問題点、脆弱すぎる社会保障の課題を要求に

千駄の萱

コロナ禍が始まって3年、ロシアによるウクライナ侵略開始から3ヶ月が過ぎた。歴史の流れで言えばごく短いこの期間に世界は大きく変わった。それぞれウィルスと人間という異なる原因が元ではあるものの、そこにはプラス面があり、マイナス面がある。プラス面

で共通しているのは、自らを脅かすものに対して団結して立ち向かう人々の存在。国境・民族を越えて絆を築き、助け合う強い意志の発現があった。真意は様々かもしれないが、そのような人々が確かに存在し、絶望的な犠牲が続く中でも多くの救いを見いだせた。そこにあるのは人間の持つ強さ美しさの体現だと思う。一方のマイナス面では、そういった人々を分断しようとする流れが顕在化してきたこと。元々この国にも一定層が存在したが、トランプの登場に後押しされて拡大し、退場した後も各国で分断を引き起こしている。これは人間の醜い面の現れ。日本でも改憲を通り越して核武装論まで持ち出す状況になっている。暴論に対し正面から押しとどめる平和的な手段こそ選挙で意思を示すことなのだ。(ひ)